



第九たいむず

Beethoven

No.12 2015.8.20通刊1154号 担当 マツ

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0863 高崎市聖石町9-13(赤羽方) TEL/FAX:027-322-0996 緊急 090-1828-8052(あきら)



今回からたいむず作成メンバーに加えさせていただくことになりました、マツです。よろしくお願いたします。さて、先日、高崎の図書館へ行き、第九のCDを借りてきました。カラヤンやフルトベングラーなど、いろいろと聴き比べてみると面白いですね～。きたる、23日にはサマーレッスンがあります。第九は体力勝負です！みなさん、体調を万全にして頑張りましょう！

◆ たいむず編集委員に加わりました ソプラノ 松島聖子

このたび、たいむず編集委員に加わらせていただくことになりました、松島と申します。高崎第九に入団して3年目となります。まだまだ新参者ではございますが、先輩方の経験やアドバイスをいただきながら、団員皆さま方が気持ちよく第九を歌えるような環境づくりをお手伝いしていきたいと考えております。

さて、カタイ挨拶となりましたが、実際はミーハーな人間です。昨年末からフィギュアスケートの羽生君にはまり、オフシーズンもアイスショーを観に行ったりしております。<ゆづファン>の方がいらっしゃいましたら、声をかけてくださいね！



◆ 先週のおさらい

♪ 第九 R部分 (P. 52)

4分音符を正確に数え、決して早くならないように気をつける。
いわゆる<ミステリー劇場> 緊張感をもって歌うよう心がけましょう。

♪ きよしこの夜

1番はpから始まり、2番はmp。その違いを意識して歌いましょう。
34小節から拍子が変わります。(8分の9拍子)注意が必要です。

◆ 23日(日)サマーレッスンです！！そして納涼祭もあります！！

申し込みをしていない場合でも当日参加はOKですので、ご都合がつく場合はぜひ参加してください。(その場合、昼食はご自分でご用意ください)

サマーレッスンのタイムスケジュール

9時30分～12時30分 ハレルヤ、クリスマスドレー

12時30分～13時15分 昼食

※適宜、休憩を挟みます。ご安心を！

13時15分～15時 第九

15時～16時

ドイツ公演練習<ここからはドイツ公演参加者が対象となります>

◆ 今後の予定

- 8月23日(日) サマーレッスン兼海外特別練習⑧(中央公民館大ホール)
10月17日(土) 18日(日) 軽井沢レッスン(武蔵野音大軽井沢研修センター)
11月 6日(金) ドイツ・トリアー公演(現在90名、まだまだ参加者募集中)
12月19日(土) 第42回第九演奏会(群馬音楽センター)

◆ イベント情報

- ★下野戸亜弓箏の会「箏曲演奏会」 9月6日(日)群馬会館ホール 13時開演 **New!**
当代一の下野戸先生一門の箏曲演奏会です。バス大里が出演します。是非ご来場ください。大里まで。
- ★群馬オペラ協会結成10周年記念公演『みづち』 9月6日(日)前橋市民文化会館大ホール
アルト菊池きよさんがみづち合唱団の一員として出演します。
詳細問い合わせ、チケット等は、アルト菊池さんへ。
- ★高崎市少年少女合唱団 第30回記念定期演奏会 9月12日(土) 高崎市文化会館大ホール
New!
アルト長島先生が指導なさっている、少年少女合唱団の記念定期演奏会です。開演14:00
- ★群響創立70周年記念オペラ『蝶々夫人』 9月19日(土)桐生公演 9月23日(水)前橋公演
テノール外處さんが合唱で出演され、桐生公演では諸田広美さんがすずき役で出演されます。
指揮 三ツ橋敬子、演奏 群馬交響楽団、チケット発売中 詳しくはチラシをご覧ください。
- ★日本とロシアの音楽の歴史的交流「音楽の架け橋」 9月23日(水) 14:00開演 高崎シティ
ギャラリー コアホール
ユリヤ・レヴ先生が出演されます。 @2,500円 詳しくはチラシをご覧ください

◆ 「ああ、恥ずかし」の続編

ソプラノ:本木憂子さん

<洋子先生 面白い記事、読ませていただきました(^^) コントのような店員さんですね、親子して。真顔で言っている姿を想像すると、おかしいですね(笑) そして、コンタクトレンズは私もやったことありますっ! あともうすでに外したのに、また外そうとして”ないっ!”って 焦ったり…ボケボケしている時ですね(^^) きっと”コンタクトあるある”ネタ、経験者いると思います。>

◆ 新人さんより自己紹介③ 「高崎第九に参加して」 安藤秀樹・淑子さん

1961年10月、四国香川県で高校3年の時、毎日新聞に掲載された高崎の群馬音楽センターの完成と群響の記事を見た瞬間、大学受験先を群大工学部に決めた。桜咲き、翌年4月から約千キロ離れた群馬で学生生活を過ごした。趣味として音楽を自己流でラジオや名曲喫茶でクラシックを、また、数カ月毎に群響を聴きに行くのが楽しみだった。しかし、社会人になってからは仕事でその機会もなく、教会での讃美歌を歌うことで訓練された。(秀樹)

群馬北西の山間の地で育ち、クラシック音楽は父の手動蓄音機や日曜日のラジオから流れてくるシューベルトの「楽興の時」をテーマ曲とした番組「音楽の泉」を耳にした程度の体験でした。大学時代、前橋にあった名曲喫茶【田園】で暇さえあれば仲間達と音楽を聴いていた、貴方はそんな時からの仲間だったですよ。当時から専門外の音楽なのに私は今日までずいぶんお世話になっております。今回、機会を得て二人で高崎第九に参加出来て、(練習もサボり型の私を引っ張って高崎に足しげく通わされ)有り難く幸せに思っています。(淑子)

初めて一緒に第九を歌う私達ですが、皆様、宜しくお願い致します。(秀樹・淑子)



歌詞(ドイツ語原詞・日本語訳) <インターネット「ウィキペディア」より>

An die Freude

「歓喜に寄せて」

*O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen und freudenvollere.*
(ベートーヴェン作詞)

おお友よ、このような旋律ではない！
もっと心地よいものを歌おうではないか
もっと喜びに満ち溢れるものを
(ベートーヴェン作詞)

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium
Wir betreten feuertrunken.
Himmlische, dein Heiligtum!

歓喜よ、神々の麗しき靈感よ
天上樂園の乙女よ
我々は火のように酔いしれて
崇高な汝(歓喜)の聖所に入る

Deine Zauber binden wieder,
(1803 年改稿)
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
(1785 年初稿;
*Was der Mode Schwert geteilt;
Bettler werden Fürstenbrüder,)*
Wo dein sanfter Flügel weilt.

汝が魔力は再び結び合わせる
(1803 年改稿)
時流が強く切り離れたものを
すべての人々は兄弟となる
(1785 年初稿
*時流の刀が切り離れたものを
物乞いらは君主らの兄弟となる)*
汝の柔らかな翼が留まる所で

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!

ひとりの友の友となるという
大きな成功を勝ち取った者
心優しき妻を得た者は
彼の歓声に声を合わせよ

Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund!

そうだ、地上にただ一人だけでも
心を分かち合う魂があると言える者も歓呼せよ
そしてそれがどうしてもできなかった者は
この輪から泣く泣く立ち去るがよい

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.

すべての存在は
自然の乳房から歓喜を飲み
すべての善人もすべての悪人も
薔薇の路をたどる

Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
und der Cherub steht vor Gott.

自然は口づけと葡萄酒と
死の試練を受けた友を与えてくれた
快樂は虫けらのような者にも与えられ
智天使ケルビムは神の前に立つ

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

神の壮麗な計画により
太陽が喜ばしく天空を駆け巡るように
兄弟よ、自らの道を進め
英雄のように喜ばしく勝利を目指せ

Seid umschlungen, Millionen!
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder, über'm Sternenzelt
Muß ein lieber Vater wohnen.

抱き合おう、諸人(もろびと)よ！
この口づけを全世界に！
兄弟よ、この星空の上に
愛する父がおられるのだ

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn über'm Sternenzelt!
Über Sternen muß er wohnen.

ひざまずくか、諸人よ？
創造主を感じるか、世界よ
星空の上に神を求めよ
星の彼方に必ず神は住みたもう

歌詞は、シラーの詩。作品「自由賛歌」(独: Ode An die Freiheit、仏: Hymne à la liberté 1785 年)がフランス革命の直後ラ・マルセイエーズのメロディーでドイツの学生に歌われていた。そこで詩を書き直した「歓喜に寄せて」(*An die Freude* 1785 年初稿、1803 年一部改稿)にしたところ、これをベートーヴェンが歌詞として 1822 年 - 1824 年に引用書き直した。ベートーヴェンは 1792 年にこの詩の初稿に出会い、感動して曲を付けようとしているが、実際に第 9 交響曲として 1824 年に完成した時には、1803 年改稿版の詩を用いている。

1785 年のシラーの「自由」(Freiheit / フライハイト)の詩はフリーメイソンの理念を詩にしたものであり、ドレスデンのフリーメイソンの儀式のために書かれた。

ベートーヴェンは生涯にわたってシラーの詩集を愛読したが、実際に交響曲第 9 番二短調『合唱付』作品 125 の第 4 楽章の歌詞に織り込むにあたって、3 分の 1 ほどの長さに翻案している。冒頭にバリトン歌手が独唱で歌う“おお友よ、このような音ではなく…”は、ベートーヴェンが自分で考えたものであり、シラーの原詩にはない。

先週住谷先生の、歌詞の発音練習の折、第九の歌詞(シラーの詩)の日本語訳のお話がありました。日本語訳は、何種類かありますが、その一つとして紹介致します。私たちが歌う部分を、このシラーの詩全体と良く照合し、より理解を深めて歌えば、歓喜も増すのではと思います。